

青少年教育施設と連携した取組

いじめに向かわせない態度・能力を育成するためには、学校の教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育の充実、読書活動・体験活動などの推進により、児童生徒の社会性を育むとともに、幅広い社会体験・生活体験の機会を設け、他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を培い、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度を養うことが必要です。

しかし、都市化や核家族化・少子化が進行し、情報機器が普及する中で、間接体験が増加する反面、自然との触れ合いや社会参加の活動など直接体験が減少しています。

このような状況を踏まえ、「社会教育と連携したプログラム」の1つとして、集団宿泊活動や自然体験活動など多様な体験活動を行う道立青少年体験活動支援施設における実践を紹介します。

各学校においては、自校の取組の検討等を行う際の資料として御活用ください。

【事例紹介の構成】

1 活動名
2 対象
3 時期
4 活動の概要
5 ねらい
6 活動の流れ（○分）
7 研修全体の日程例
8 事前準備（打合せ）、指導の例
9 事後の研修成果の活用例
10 参考事例
11 いじめの未然防止にかかわって期待できる効果

